

# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県鹿島台商業高等学校 】

1 実践テーマ	①・②・Ⅲ・④・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：3学年80名（講演、研究・企画・発表等） 1学年78名（講演）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>①教科名（3学年：地域ビジネスプランニング（学校設定科目）） （1学年：ビジネス基礎）</p> <p>②行事名（講演活動：オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業特別講演） （学習成果発表会：発表者3学年，先行生徒参加）</p> <p>③その他（</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>①イベント名（互市，わらじ祭り，デリシャストマト祭り等）</p> <p>②その他（</p>
4 目標 (ねらい)	<p>学校が所在する地域（大崎市鹿島台地域及び隣接する松山町駅，品井沼駅周辺）の魅力について調査研究を行い，地域とのふれあひの中からコミュニケーション力を養い，少子高齢化が進む地域への交流人口を拡大させるための課題を解決していくことを目的とする。特に2020年のオリンピック・パラリンピックを視野に入れ，県内外はもとより海外からの観光者を誘致するための工夫を高校生の目線で考える。</p>
5 取組内容	<p>講演活動としては，3学年は『海外旅行者向け世界農業遺産大崎耕土を高校生と巡る「駅からハイキング」を企画している3年生に対して，交流人口を拡大させるための方法とその効果について理解を深め，今後の調査や研究，企画・実施に向けての一助とする。また，観光ビジネスによる地域への経済効果等を学び，商業の役割を理解する。』</p> <p>1学年は『商業を学ぶ上で，交流人口拡大の意義やオリンピック・パラリンピックをビジネスチャンスと捉え，前回の東京オリンピックの経済的成果を理解し，2020オリンピック・パラリンピックが地域へもたらす影響を考える。』これらを目的に講演活動を2回実施した。</p> <p>1回目は宮城学院女子大学教授宮原育子氏による3学年には『地域の資源を活用した地域観光』1学年には『観光の役割とインバウンド観光ビジネスについて』講演をいただいた。地域資源の活用の仕方や観光者を誘致するための方法，観光を素材としたビジネスに関して学んだ。</p> <p>2回目は福島イノベーションコースト構想推進機構西嶋利安氏による『震災復興を目指した取組』について講演をいただいた。東日本大震災で被災し，9年前の震災直後の姿を残している地域があること。しかしながら復興一丁目一番地として，先進的な取組によりめざましい歩みを進めている地域がオリンピック・パラリンピックを契機に諸外国からの訪問者を招くために実施している取組を知る機会となった。その中で，この地域でもできることは何か？を考える講演となった。</p>



	<p>調査・研究・発表については、3学年が地域ビジネスプランニングの授業の中で、地域への交流人口拡大を目指した取組として『駅からハイキング』の企画を行った。鹿島台駅・松山町駅・品井沼駅の3駅を起点に18の班に分かれ、国内旅行者向けと海外旅行者向けの企画を年間通して行いった。調査ではフィールドワークを行い、実際に担当する地域を歩いて、計画した行程を確認した。</p> <p>この取組のまとめとして、学習成果発表会を令和2年1月22日に実施した。予定としては実践・検証まで行う予定ではあったが、学校等の事情により、実践・検証は次年度に新3学年が引き継いで行うこととした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>※この他に1学年は本校職員による講演前の事前学習として『観光とは何か?』について授業を行っている。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>3学年のフィールドワークや地域研究の中で、地域理解が深まった。学習成果発表会をコンペ形式で行ったこともあり、他班との差別化を図るため工夫された企画が出され、研究の成果が見て取れた。また、1学年も含めて、講演前にはそれほど興味関心がなかったオリンピック・パラリンピックだったが、この大イベントによる訪日外国人による経済効果や地域にもたらす様々な影響を考える良い機会となった。</p> <p>特に3学年においては、最終学年でもあり、地域を改めて見直すことで地域愛が育まれたことが大きな成果であると考えている。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>『海外旅行者向け世界農業遺産大崎耕土を高校生と巡る「駅からハイキング」』をテーマに行ってきたが、基本的に生徒主体で取り組むことを前提に行い、教員側は見守ることを徹底した。初めのうちは何かと教員を当てにするように質問が多かったが、答えは言わずにヒントのみを伝え続けることで、生徒間で相談しながら事を進めるように成長していった。</p> <p>生徒が主体的に調べていくことで、教員も知らなかった新たな発見があったり、放課後に自主的に地域へ調査に足を運ぶなどの学ぶ意欲が養われたと感じている。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>「駅からハイキング」はJR東日本との連携により企画しているもので、実施時期や実施内容に関して、JR東日本との連絡調整が必要である。行程の中で地域や他校との連携も必要となることから、地域協働の組織作りを進めている。</p> <p>課題は、起点とする駅が鹿島台・松島町・品井沼の3駅であり、フィールドワークを実施していくためには、生徒の移動手段として電車を利用しなければならない。そのため生徒が移動するための予算について、今後検討していかなければならない。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>継続予定 今年度は実践・検証が未実施に終わったため、次年度に今年度の企画を実践・検証した上で、新たに調査・研究を行い企画していきたいと考えている。</p>